

日時：平成30年(2018年)8月24日(金) 13:30~16:30

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：1名

傍聴者：3名

委員	<p>開会</p> <p>では、第4回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
委員	<p>傍聴希望者の確認</p> <p>傍聴者はあるか。</p>
事務局	<p>本日の傍聴者は3名である。 既に入室してもらっている。</p>
委員	<p>では、本日の次第に従い、審議を始める。</p>
委員	<p>議題1「行政評価委員会まとめ等の確認について」</p> <p>では、議題1「行政評価委員会まとめ等の確認について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p><第2回行政評価委員会のまとめ(修正版)の説明、第3回行政評価委員会の議事録及びまとめの確認></p>
委員	<p>それでは、各委員から修正はないか。</p> <p>(意見なし)</p>
委員	<p>議題2「平成30年度行政評価(平成29年度実施分)について」</p> <p>次の議題に移る。議題2「平成30年度行政評価(平成29年度実施分)について」審議に入る。</p>
事務局	<p>本日の審議対象施策は、「防犯・交通安全」、「河川・水辺空間」「緑化・環境」である。 担当室長より施策の説明の後、質疑という形で進める。</p>
担当室長	<p><施策の説明></p> <p><各施策審議></p>

<p>【基本目標】安全・都市基盤</p> <p>【施策】防犯・交通安全</p> <p>【施策展開の方針】『1 防犯意識の啓発、市民と行政の連携による防犯活動を推進します』</p>	
委員	<p>指標が充実していてとても良い。メールや防犯カメラなど様々な防犯の取り組みのなかでどれが一番有効であると思うか。</p>
生活安全室長	<p>宝塚市の犯罪件数は年々減少している。平成29年度から防犯カメラを設置しているが、効果は未検証である。指標の推移では、安心メールの登録者数やアトム防犯グループ数が増えており、市民の方々が主体になり、地域の防犯力を上げていることが一番有効であると思う。そういった取り組みの成果が数字として出ているのではないかと思う。</p> <p>また、警察OBを派遣する防犯講習会の参加者や実施回数は年々増加しており、大変人気である。そういう講習会も地域の防犯力向上に役立っていると思う。</p>
委員	<p>アトム防犯グループは具体的にどのような活動をしているのか。</p>
生活安全室長	<p>登下校時に地域のPTAや自治会の方々が、通学路に立っていただいている。支援としては、黄色いタスキの支給を行っている。</p>
委員	<p>防犯講習会ではどんなことをしているのか。</p>
生活安全室長	<p>警察が行う講座をより市民に身近で分かりやすく気軽なものにするため、要望に応じてテーマを変えて開催している。</p>
委員	<p>自転車のヘルメット着用の努力義務について、幼児はよく被っているが、これは成人にも課すという理解で良いか。</p>
生活安全室長	<p>その通りである。児童のヘルメット着用努力義務は、道路交通法で決まっている。今回の条例の改正は、成人のヘルメット着用の努力義務である。</p> <p>自転車での死亡事故は、頭部を打って亡くなる方が50%を占めている。亡くなった方の多くは高齢者であるが、その他の年齢層もいる。そういったことからヘルメット着用の努力義務を全ての人に課すこととした。</p>
委員	<p>ヘルメット着用についてどのような啓発を行うのか。例えば、ヘルメット購入の補助金を出したり、自転販売店に協力を依頼したりするのか。</p>
生活安全室長	<p>条例改正だけでは、広まらないと考えている。市民の方々にヘルメットを配るような施策を考えたい。例えば、交通安全カーニバルのビンゴ大会景品にヘルメットを用意する等、市の財源も限られているので関連団体から寄付いただくこと等を検討している。条例で全ての年齢の方々にヘルメット着用の努力義務を課している自治体は初めてではないが、先進的な方だと思う。まずは、市役所の職員が行うことによって、広く市民に啓発したいと考えている。</p>

委員	自転車事故個人賠償保険の加入率はどれくらいか。
防犯交通安全課長	兵庫県の調査では、66パーセントが加入している。
委員	高齢者の事故が多いと聞いているので福祉団体からヘルメットの援助を求めているかどうか。また、ヘルメット着用の有無でのケガの違いをもっとPRしてはどうか。
委員	大阪府と兵庫県では、自転車保険の加入義務があるにも関わらず、あまり浸透していないように感じる。 話は変わるが、犯罪被害者支援制度は具体的にはどう変更するのか。
防犯交通安全課長	早期に制度を作ったこともあり、遺族支援金と傷害支援金の金銭支給にとどまっている。犯罪被害に遭われた方は、日常生活が送れない状況になる場合があるので、日常の家事支援や一時保育支援、転居支援、心理相談等を盛り込みたいと考えている。
委員	仕事柄、よく相談を受けるが、市役所のそういうサービス自体を知らない人が多い。多くの市民に制度を知ってもらうために法律事務所や司法書士事務所にカウンセリングや相談窓口が市役所にあることをPRしてはどうか。
防犯交通安全課長	警察、法律の専門家、病院、他の相談機関とそれぞれ連携している。今後とも啓発に努める。
委員	宝塚市の給付制度は、警察の犯罪被害給付制度とは違うか。
防犯交通安全課長	警察の制度とは違う。市の制度では、死亡で30万円、1か月以上の加療が必要な場合は10万円支給している。
委員	警察の制度と二重請求は可能か。
防犯交通安全課長	可能である。
委員	警察の制度は支給要件が厳しく、支給までには時間がかかる。その間を埋めるために一時金等の制度があってもいいのではないかと考えた。
委員	防犯カメラは、どのくらいの費用がかかっているのか。本当に効果があるのか。指標を見ると、犯罪発生件数が下がってきているので防犯カメラを追加することに意味があるのか。

委員	委員の意見に加えて、防犯カメラは民間設置の物があるので、市が設置することの必要性を聞きたい。犯罪検挙には役立つとは思いますが、犯罪抑止に繋がるかも合わせて教えて欲しい。
防犯交通安全課長	防犯カメラはリースで行っている。現在のところ230台契約しており、6年間で約5,000万円のリース料を予定している。
委員	防犯カメラの設置場所は具体的にどこか。
防犯交通安全課長	まず、初めに30台を公共性の高い場所である駅周辺に設置した。その他、今年の3月までに設置した86台は、主要な幹線道路と生活道路が交わる場所に設置した。設置場所は、警察と協議を行い、犯人が逃走する際に使用する経路を想定して選定した。
委員	駅周辺に民間設置の防犯カメラが多くあるのでそもそも本当に必要か。犯罪抑止というよりも犯罪検挙のためという印象を受ける。
防犯交通安全課長	駅周辺に民間設置の防犯カメラは多くあってもベストな場所でないを考える。我々が設置するところは、防犯カメラ稼働中という告知板を張ることによって市民に安心感を提供していると考えている。
委員	犯罪捜査のための防犯カメラという印象を受ける。犯罪抑止にならないのではないか。
防犯交通安全課長	警察からの防犯カメラの画像提供依頼が多くあり、犯人の検挙につながっており犯罪抑止になると考えている。
委員	伊丹市が1,000台防犯カメラを設置したと思うが、どのような効果があったか聞いているか。
防犯交通安全課長	伊丹市からは、一定の効果があったと聞いている。
委員	市の特性を踏まえて宝塚市の230台は妥当であるのか。
防犯交通安全課長	伊丹市の1,000台については、全国的にも多い数だと思っている。他の近隣市の状況は、西宮市300台、三田市200台、川西市は160台と聞いている。それらを踏まえて宝塚市の最大280台は妥当と考える。
委員	市民にとって、防犯カメラが安全につながっていると啓発できていれば問題ないと思う。もっとPRしてはどうか。

委員	防犯カメラの空白地域がないようにしてほしい。
防犯交通安全課長	兵庫県も防犯カメラを設置するのに補助金を出している。宝塚市でも同様に補助金を出している。県は県民の安心安全を守る。市も同様である。
委員	防犯カメラの設置について個人宅にも補助金を出すことを検討してはどうか。
委員	自己評価の事務事業の構成の適正性について“推進に向けて対応策が必要”とあるが、具体的に何が必要なのか。
生活安全室長	改正を予定している条例では、自転車運転時にヘルメット着用の努力義務を課すのでそれを広めるための施策が必要と考えている。
委員	自己評価は適切に行われている。推進に向けて必要な対応策が自転車運転時のヘルメット着用の努力義務ということであれば、事務事業構成の適正性と総合評価欄にもう少し記載してほしい。

<p>【基本目標】安全・都市基盤 【施策】防犯・交通安全 【施策展開の方針】『2 交通安全意識の啓発、安全施設の整備を推進します』</p>	
委員	自転車の安全利用推進員の役割を教えて欲しい。
生活安全室長	宝塚市自転車の安全利用に関する条例に記載している。自転車の運転マナーを啓発し、警察と協力しながら危険な運転をする人に注意喚起する人である。
委員	ボランティアの位置づけか。
生活安全室長	そのとおりである。
委員	人数はどのくらいか。
生活安全室長	現在、20人くらいである。
委員	先ほどの細施策の中のヘルメットの着用について注意喚起するのもこの人達の役目か。
生活安全室長	そう考えている。
委員	自転車の安全利用推進員は地域の中で重要な役割と考えるので、目標数値を設定する、もしくは協働の取り組みの中で安全利用推進員をどう増やしていくかを記載して欲しい。
委員	街路灯について、中山五月台自治会エリアでは、ここ10年、20年では自治会も費用を負担しながら市と協働して市内で一番明るい街を目指して活動している。LEDがない時代は、球切れが起こった時は市にすぐ連絡して交換していた。
委員	この細施策の自己評価では全体的に順調に進んでいるとされており、指標も充実している。
委員	1点気になることがある。事務事業評価表は全て改善となっているが、施策評価表は順調となっている。街路灯の交換作業をもし市の職員がしているのであればまだ改善の余地があるのではないかと思う。
防犯交通安全課長	街路灯の事業は、平成25、27年度にLED化を行い、電気料金の削減をしている。それに伴い、球切れの件数も減っている。 街路灯の交換作業の事務手続については、以前は職員がしていたが、今はリース会社が行っている。

委員	<p>事務事業評価表では改善となっているが、施策評価表では現状維持となっている。それぞれ表現しているものはあると思うが、評価の際は辻褄が合うように評価表に記載してほしい。</p>
委員	<p>宝塚市の自転車利用状況についてはどうか。</p>
防犯交通安全課長	<p>主に通勤、通学に使う場合が多い、と聞いている。</p>
委員	<p>駐輪場等にヘルメットが安全に保管できる物があるともっと住民にヘルメットの着用が普及すると思う。</p>

<p>【基本目標】安全・都市基盤</p> <p>【施策】河川・水辺空間</p> <p>【施策展開の方針】『1 浸水被害が多発する区域の早期解消をめざして、総合治水の観点から、河川の改修や雨水路の整備などを推進します』</p>	
委員	9つのアドプト団体だけで武庫川の全区間をまかなえるのか。
生活安全室長	市役所周辺の下流域で活動を行っている。
委員	市が対応しないといけない区域はどのくらいか。指標等で表せないのか。例えば、浸水被害が大きい区域のうち、どのくらい整備できたのかということ指標等で表現できないか。
生活安全室長	<p>今回の施策評価表の中では直接記載はしていないが、荒神川都市基盤河川改修事業整備率という指標で表現している。</p> <p>市内でも浸水区域はいくつかある。その中で深刻な場所は、宝塚インター近くの鶴の荘、向月町地区である。ここは横に大堀川があり、その水が武庫川に全て流入できずに、浸水する。大堀川の改修整備は兵庫県が鋭意進めている最中である。</p> <p>市の課題としては、荒神川の流域の雨の一部が大堀川流域に流入していることである。平成29年度は流入をカットし、本来の流域である荒神川に流れるようにし、浸水区域の流下能力の向上を図った。</p>
委員	ハザードマップ等に河川改修事業が整備済み、未整備の記載はできないか。
生活安全室長	<p>ハザードマップには、河川（外水）による浸水区域が示されており、浸水区域の解消は河川だけの流下能力だけでは解消できない。それに加えて、内水（側溝や水路）の排水機能も同時に整備することにより解消される。</p> <p>河川の場合は、10年確率（10年に1度程度の確率で発生する洪水）の整備を考えている。内水に関しては、6年確率（6年に1度程度の確率で発生する洪水）で整備を考えている。毛細血管のように市内に張り巡らされた内水から大きな動脈である武庫川に流れ着くイメージである。</p> <p>武庫川は100年確率（100年に1度程度の確率で発生する洪水）を目指して整備を行っているが、現在は17年確率（17年に1度程度の確率で発生する洪水）程の河積と聞いている。</p>
委員	施策や事業その他の取り組みでハザードマップ等が変化していくと思うが、近い将来の変化等も示せないか。
生活安全室長	ハザードマップは地区にある危険性について認識していただくことを目的としている。
委員	様々な意見があると思うが、このようなマップに過去に起こった窃盗や交通事故などの事件を記載できないか。

生活安全室長	様々な意見があると思うが、別途防犯マップを作成している自治体もある。
委員	<p>昨日の雨も然り、西日本豪雨、土砂災害など、毎年考えられないような災害が起こっているのもとても重要な施策だと思う。環境を取り巻く変化を押さえていかなければいけないと感じている。</p> <p>どういう手を打つか考えるのは難しい施策だと思うが、もう少し市民にどういう手段や施策を用いるのかわかりやすく記載して欲しい。</p>
生活安全室長	昨日の雨では、10分間で30ミリ超の雨が降った。それぐらいのレベルのものを想定してハードを整備するのは難しいと考える。まずは、住んでいる地域にどういった危険性が潜んでいるかを正しく理解して、身を守ることが重要である。
委員	雨水貯留施設はどれぐらいの数があれば良いのか。
生活安全室長	具体的な数字を示すのは難しい。雨水の対策は、「流す、貯める、しみこまず」の3つしかない。宝塚市の地質を考慮するとしみこまずは難しい。他の手を考えると「貯める」となる。家庭貯留は、大雨の際にどれぐらい役立つかといわれるとコントロールが難しく、効果は薄いだが、節水対策にもなるので増やしていきたい。
委員	高槻市では、地下にコンクリート造りの大規模貯留施設がある。
生活安全室長	武庫川が今目指している整備は今後20年かけて約24年確率のものを作ろうとしている。総合治水の考え方は、河積を広げる、避難、貯留の3点があり、これを進めている。貯留は、公園貯留、学校の校庭を使った校庭貯留、溜池貯留がある。しかし、校庭貯留は雨が降った後、使用しにくくなるという問題もあり、なかなか進まない。尼崎市のような大きな公園地下貯留施設は費用面の負担が大きい。
委員	武庫川流域の各市で調整を行わないのか。
生活安全室長	本来、貯留は下流に対して効果があるので、宝塚市単体だけではあまり効果はない。武庫川流域で協議会を作っており、関連市と協議を行い、県主導で貯留を進めようとしている。
委員	公共施設で雨水を貯留し、トイレの水等で使用しているところもある。雑排水利用は流行ったと思うが、現状はどうか。
生活安全室長	中水利用は、一定の効果はあるが、施設の老朽化を進めてしまうデメリットがあり、なかなか進んでいない。
委員	雨水利用という点で、大規模公園で大きなタンクを設置し、災害時の際にトイレの水として利用してはどうか。
委員	大規模災害は防げないかもしれないが、雨水貯留施設の普及に努めてはどうか。

生活安全室長	<p>雨水貯留施設は、災害時に非常に役立つものと理解している。災害時は井戸水を使用するなど、災害時に水は非常に大事なものである。</p>
委員	<p>事務事業構成の適正性について、自己評価は”推進に向けて対応策が必要”とあるが、どこに課題があって、どう取り組む必要があるかを記載してほしい。</p>

<p>【基本目標】安全・都市基盤</p> <p>【施策】河川・水辺空間</p> <p>【施策展開の方針】『2 河川・水辺空間の利活用や美化活動を推進します』</p>	
委員	市民アンケート等で「武庫川の水辺空間を快適なものと思うか。」という指標設定はできないか。
生活安全室長	市民アンケートの項目は確認を行う。武庫川は市の中心を通る川であり、シンボリックな位置づけになっており、アメニティとしての機能を持っている。長尾山系、六甲山系と共に景観形成にも寄与している。河川敷等は憩いの空間として広く市民に利用されている。市としては、引き続き憩いの空間として利用してもらいたい。
委員	行政評価の手法である業績測定の観点からは、市民がどう感じているかわかるような指標を設定してはどうか。他の委員の方々に意見がなければこの細施策はこの指標の構成でいいと考える。
委員	<p>河川の美化、利用についての事業は市民の各種団体と行政とでイベントを行い、そこを切り口に子供たちにアメニティや河川の使い方を学ぶ環境づくりを行った経験がある。</p> <p>全市的にボーイスカウト、ガールスカウトや商工会議所を巻き込んだようなイベントはあるのか。</p>
生活安全室長	先日も武庫川の河川敷を使い、宝塚23万人の線香花火大会を開催した。冬にはハーフマラソン、市役所の隣ではフリーマーケット、ラグビーやサッカーで使われており、アメニティ空間として活用してもらっている。
委員	アドプト制度を利用した美化活動の実績はあるのか。例えば、何トン草を刈ったのかという数字はあるか。
生活安全室長	どのくらいの草などを処分したかという数字はあるが、評価表には記載していない。
委員	そういう数字を評価表で記載してはどうか。
委員	委員の方々は、武庫川を利用した感想等があれば教えて欲しい。
委員	宝塚23万人の線香花火大会が開催された時にパドルボードがあったことを聞き、武庫川に屋形船を出せたらいいなと思った。夕方は、若水の橋から見える景色はすごく綺麗なので他に利活用の方法があるのではないか。
委員	市役所の河川敷をよく利用しているが、ソリオの方の河川敷の方が交通の便もいいのでもう少し活用してはどうか。
委員	ソリオ付近の駐車場事情等はどうか。

生活安全室長	市役所周辺と比較するとソリオ付近は駐車場料金が低い。市役所周辺は、末広公園、市役所の駐車場もあるので利用しやすい環境になっている。
委員	武庫川のアメニティ向上について指標等はないが概ね好評であり、一層利活用の方法があるのではないかと。
委員	環境美化推進事業（公園河川課）について、県の支出金もあるが、もう少し成果を出していくべきだと思う。アドプト団体も高齢化が進み、人が減ってきていると思うので、人を集める工夫が必要ではないか。例えば、大学生に頼る方法もあると思う。利活用しながら一緒に美化活動するなどの工夫をしてはどうか。
委員	委員の質問に加えて美化の課題はどういったことか教えてほしい。
生活安全室長	市のお金はあまり出ていない。県がアドプト団体と契約を行い、団体に資機材を支給する。そこで刈られた草を市が回収する役割をしている。武庫川の河川敷で作業いただいているが、草が多く、量も多い。1区間で500メートルという距離をアドプトしていただいている団体もある。人も少なくなり、高齢化も進んで美化活動の継続が困難な団体も出てきている。アドプト団体の構成員はご近所の方がしており、ボランティアの精神でしていただいている。もう少し、手厚い支援ができればと思うがなかなか難しい状況である。また、制度自体は以前から変わらず、他の団体の力や新たな担い手の力を借りなくてはいけないと感じている。
委員	<p>現状の制度が難しいとなると次は、市の支出を増やさないといけない。</p> <p>新たな人材を獲得するような取り組みを行い、それを今の団体につなげるようにできないか。</p>

<p>【基本目標】安全・都市基盤 【施策】緑化・公園 【施策展開の方針】『1 協働による地域のコミュニティ活動の場としての公園づくりを推進します』</p>	
委員	北雲雀きずきの森の総事業費は5年でどのくらいか。
生活安全室長	2億円程を予定している。
委員	公園アドプト制度は非常に機能していると思う。中山五月台は公園が3つあり、それぞれ子どもたちの利用を見かけることが多い。中山五月台公園は、3つのエリアがあり、老人クラブ、ボール遊びをしている子どもたち、小学生未満の幼児など上手く住みわけをして利用しており、利用者の年齢層が幅広いと感じている。
委員	子供会や自治会に協力依頼をすればアドプト団体が増えるのではないか。
委員	目標値を上回っていることは素晴らしいことであるとは思いますが、成果指標“公園アドプト制度により市民団体などが管理する公園数”の目標値をなぜ49に設定したのか。
生活安全室長	<p>目標値の設定時は、年に1~2ぐらいのペースでしかアドプト団体が増えなかったので当初値+年数という計算で49と設定した。</p> <p>地域の方とは公園を管理していただく内容の協定を結ぶ。ボランティア保険に入っているから3万円と1㎡あたり20円を単価としてお渡し、清掃をお願いする。低木の植栽管理も含む場合は1㎡あたり24円を単価としてお渡ししている。それで1年間お願いしている。一般の清掃事業者に委託するよりも安価になる。また、地域団体が管理する公園は綺麗で利用者に快適に利用していただける。</p>
委員	公園アドプト制度ではどこまで自由に使用していいのか。花の決まりはあるか。
生活安全室長	<p>契約内容は、清掃の依頼であり、花の種類については特に決まりはない。花を植えたい、記念樹を植えたいという要望がある時は、個別で相談に乗っている。</p> <p>昨年度から実施している公園リノベーション事業はアドプト公園を対象に公園アドプト団体から公園に対するリニューアル提案をってもらう事業である。アドプト団体からこういう公園にしたいという要望（例えば、この地域は高齢者が多いので健康増進のための健康遊具を置いてほしい。）を募り、審査し、より良い提案があった団体の公園工事を行っている。大変好評である。</p>
委員	公園リノベーション事業は大変いい事業だと思う。成果指標“公園アドプト制度により市民団体などが管理する公園数”の指標の上限値は312なのか。
生活安全室長	市役所隣の末広公園や中山の奥にある何ヘクタールもあるようなアドプトに向いていない公園も312の対象に入る。地域の方が利用する街区公園を対象にアドプトを広げたいと考えている。

委員	<p>目標値を上回っているということは、それだけ大事だと考える人がいるということなので良いことだと思う。</p>
委員	<p>公園維持管理事業で、人件費が4,500万円もかかっており、過去からの事業費の推移を見ると増加している。</p> <p>また、公園リノベーション事業は、地方創生交付金の1,400万円を使い、事業を行っていると思うが、今後、交付金が無くなった場合、財源的に事業継続は可能か。</p>
生活安全室長	<p>公園リノベーション事業は、地方創生交付金を活用しており、交付金は3年間の時限的なものであり、平成31年度には終了してしまう。公園アドプトも推進でき、好評の事業なので、交付金が無くなっても財政部局には事業継続をお願いしたい。</p> <p>宝塚市は小さい公園が多く、㎡単価で割り戻すと割高になるが、他市と比較するとそこまで差がないので公園維持管理事業の額は高すぎるという訳ではないと思う。</p>
委員	<p>割高である狭小公園の統廃合を進めて欲しいと思うが、そもそもなぜそうなったか教えて欲しい。</p>
生活安全室長	<p>宝塚市は阪神間で市民一人当たりの公園面積が、ずっと低いままで公園整備が遅れていた。しかし、北雲雀きずきの森が28ヘクタールあり、市民一人当たりの公園面積が増えた。</p> <p>当時は、一人当たりの公園面積を少しでも増やすために、小さい提供公園でも引き受けた経緯があるのではないか。</p>
委員	<p>公園を舞台とした地域のコミュニティ活動の状況はどうか。</p>
委員	<p>中山五月台公園は、公園リノベーション事業で和式トイレを洋式化し、車イスでも使用できるように整備をしてもらった。最近の子どもたちは和式では用を足せない子が多い。また、お年寄は、一度座ると立ち上がれずに助けを呼ぶ事案が発生したこともある。こういった経緯から地域の中ではトイレ洋式化の声が大きくなった。行政がトイレの整備をしてからは、公園の利用人数が目に見えて増えた。利用者はゴミを持ち帰り、公園を大事に利用する意識が芽生えていると感じている。</p>

<p>【基本目標】安全・都市基盤</p> <p>【施策】緑化・公園</p> <p>【施策展開の方針】『2 市街地での緑化（花）を推進し、都市ブランドの向上に取り組みます』</p>	
委員	花と緑の市民活動推進事業について総合評価は改善となっている。事業費は大きく、どこにお金がかかっているか、事業の効果と施策はどう結びついているかを教えて欲しい。
生活安全室長	市民の方々に緑化の意識を醸成することを目的に行っている。 花と緑のフェスティバルは年に1度開催している。圃場である安倉フラワーガーデンにはボランティアの方や花に関心がある方々に集まっていただき、花についての講習会の開催、緑化団体さんへ花を年に2回配布し、地域を花で飾っていただいている。
委員	どこに費用がかかっているのか。例えば花と緑のフェスティバルにはいくら支出しているか。
生活安全室長	花と緑のフェスティバルには250万円ほど支出している。
委員	約2,000万円の事業費の内訳とその費用対効果はどうか。
生活安全室長	事業費については、少し高い印象があるのは事実である。配る花も高価な花ではない。財政部局からも費用を精査するように指摘されており、真摯に受け止めて改善に努めたい。
委員	委員会としてもここは指摘したい。
委員	マンションでも周りに植栽をしているところを見かける。最近、宝塚南口にマンションが多くできているので緑化を推進する目的で花の苗等を配ってはどうか。
生活安全室長	マンションの公共スペースに花壇スペースがあり、管理組合が緑化団体に登録していただければ年に2回花の苗を配っている。
委員	そういう事業を知らない人が多いと思うのでもう少しPRしてはどうか。
生活安全室長	PR不足の部分もあると思う。この事業は、道路のポケットパークなどの公共施設を花壇として緑化することを目的としている。
委員	宝塚市は日本三大植木産地であるが、そのPRも含めて事業費が大きいということか。
生活安全室長	植木は主として産業のカテゴリーになる。公園整備が遅れたのも身近に植木があるからという理由もあるかもしれない。
委員	事業を植木と一緒に行うことはできないか。

生活安全室長	植木は産業的要素が強く、市民緑化としての位置づけは難しいと思う。
委員	指標の推移を見ると緑化基金活用事業は停滞していると思うが現状はどうか。ブロック塀の問題もあり、生垣に注目が集まっているので申請件数が増えるのではないかな。
生活安全室長	先日の北大阪地震により、当市でもブロック塀の一斉点検を行った。危険なブロック塀を無くすために、安全で景観に配慮した生垣を推進するために広報誌でPRを行っている。これを機会に推進したい。
委員	評価表の記載では、広報誌に掲載しても申請が減っている。もし、地震があっても減るようであれば、他のPR方法や要件の見直しを考えてはどうか。生垣を広めること自体はとていいことだと思う。
生活安全室長	普及方法については引き続き検討を行う。
委員	この細施策は、市民との役割分担の妥当性のところに“役割分担の見直しが必要”と記載しているが、これはなぜか。 また、安倉フラワーガーデンのボランティアの状況を教えて欲しい。
生活安全室長	安倉フラワーガーデンのボランティア確保ができていない課題が依然としてあるため記載した。 ボランティアの方は花を栽培し、市内の入学式や卒業式などの色々なイベントで花を貸し出している。また、花と緑のフェスティバルでも多くの花を飾っている。しかし、ボランティア団体の構成員の高齢化が進み、後継者がいなくなり作業ができなくなった。 急遽、他の緑化団体に声をかけて安倉フラワーガーデンでの活動の話し合いをしている。少しでもお力をお借りして活動を存続する方向で話し合いをしている。なんとか存続できるような形にしたい。
委員	ボランティアの待遇はどうか。
生活安全室長	年間20万円を支給しているが、花の苗の購入に充てると、余裕はない状況である。
委員	個人では扱えないほどの多様な花に触れることを生きがいにされているのか。
生活安全室長	そうだと思う。
委員	何人ぐらいいるのか。
生活安全室長	4、5人いたが皆さん高齢である。

委員	ボランティアが見つかることを委員会としても願う。
委員	<p>市民にこだわらなくてもいいのではないかと。市民との協働も大事だと思うが住民ではなくて、他の団体に求めているかどうか。</p> <p>花と緑の推進活動事業の費用について質問したが、宝塚市としての都市ブランドのイメージもあるのでそれがうまく効果的に作用していればやるべきことだと思う。</p>

【基本目標】安全・都市基盤	
【施策】緑化・公園	
【施策展開の方針】『3 緑地や里山・まち山の保全・再生に取り組みます』	
委員	成果指標が活動団体数のみであるが、これ以外の指標を設定できないか。
委員	北雲雀きずきの森の事業費は5年で2億円と非常に大きい。活動団体をもっと増やすべきであり、市民にもっと利用してもらうような工夫が必要である。アクセスに関して、不便性も感じた。
委員	そもそも論であるが、北雲雀きずきの森を取得する必要があったのか。ゴルフ場がなくなり、市が買い取り、里山保全の公園の話になったと伺った。今更事業をやめることはできないので、市としてもっと重要な事業に位置付けるべきである。
委員	もう一つ、市の一番端にあるというロケーションの問題もある。
生活安全室長	経緯については、元々ゴルフ場であったが、荒地地になっており、住宅開発の話が出た。その時すでに現在のよう濃い緑が形成されていた。立地としては北向きでアクセスもあまり良くないので行政としても、宅地開発は厳しいと思っていた。そんな時、地域の方から緑地を保全したいと申し出があった。その団体が、現在活動しているきずな会である。そのような要望があり、検討した結果、市は土地を取得した。また、県からの補助金もあり、散策ができる現在の形に整備した。 北雲雀きずきの森は近隣の小中学校の環境学習にも役立っており、宝塚市の代表的なまち山になるポテンシャルがある。ただし、宝塚市側からのアクセスについては課題がある。 現在、花屋敷グラウンドと北雲雀きずきの森を結ぶ通路を計画しており、それが完成すれば宝塚市側からのアクセスが改善される。しかし、まだ地域との話し合い中なので案の状態である。通路が完成すれば、花屋敷グラウンドと北雲雀きずきの森での相乗効果も期待できる。
委員	広く一般の方が利用することを考えているのか。
生活安全室長	もちろん、考えている。近所の方々は散歩で使用したり、ハイカーなどが訪れたり、バードウォッチングや虫の観察をしている話を聞く。近隣住民にとっても良い憩いの場と思っている。
委員	近所に大学（宝塚医療大学、宝塚大学）が2つあると思うのだが、協力してもらうことはできないのか。
生活安全室長	これから検討する。
委員	宝塚大学の人は、駅からどのようにアクセスするのか。スクールバスがあればみんな利用しやすくなるように感じる。北雲雀きずきの森については、取り組みがこれ以上広がらずに一部の団体が保全整備している状況になることを心配している。

委員	<p>現地視察の際に土砂災害が起こっていた。その辺りも整備してほしい。拠点になっている小屋はとても暑いので、空調を整備してはどうか。</p>
生活安全室長	<p>安全確保は優先事項と考える。花屋敷グラウンドに向かう途中に見晴台があり、川西市を一望でき、花火大会の時は多くの人が来ていると聞いているので是非訪れてみて欲しい。</p>
委員	<p>実現することは難しいかもしれないが、BBQ場やキャンプ場があればより多くの世代を集客できるのではないか。</p>
生活安全室長	<p>活動団体の意見を聞きながら市内外の方が気持ちよく使ってもらえるものを目指して整備を行う。</p>
委員	<p>では、この細施策については、指標をもう少し工夫できないかということ以外の自己評価は概ね適正に評価されている。今後の積極的な取り組みに期待したい。</p>

委員	<p>閉 会</p> <p>では、本日の審議を終了する。事務局より、次回の委員会の日時、審議内容等について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>次回（第5回）の委員会は9月3日（月）13：30～16：00、会場は特別会議室である。施策分野は、「土地利用」「上下水道」「都市景観」である。</p>